

審査の結果の要旨

森 渚

本研究は、日本において問題視されている若年女性層のやせ問題に着目し、やせに関連する要因が食事摂取量に与える影響を検討した研究である。我が国では、「健康日本 21」において 20 代女性のやせを 15%まで下げる目標を掲げているが、効果的な対策は取られていないのが現状である。実際にやせている女性の食事の栄養素・食品摂取量を記述した研究は少なく、やせに関連する要因が食事と与える影響を検討した研究も不足していることから、今後のやせ対策を考える上で研究が必要であると考えた。下記のような結果を得ている。

1. 日本人若年女性を対象とし、やせ女性においてやせ願望が食事摂取量に与える影響を検討した。対象者の 84%にやせ願望が認められた。穀類、米類の摂取量が少ないほど、やせ+やせ願望あり群の出現のオッズが有意に高くなっていった。一方、やせ+やせ願望なし群では、炭水化物、穀類、米類の摂取量は有意に高く、逆に脂質、洋菓子類、油脂類の摂取量は有意に低くなっていった。やせている日本人若年女性では、やせ願望の有無により、食事の内容が異なることが明らかとなった（目的 1 に対応）。
2. 今回、新たに日本人女子大学生を対象に収集を行ったデータを用い、栄養知識、メディア暴露、メディア内在化が食事摂取量に与える影響をやせあり群とやせなし群で比較検討した。過去の研究では、栄養知識、メディア暴露が高いほど良い食事をしてきたとの報告されており、やせ群で栄養知識が低い傾向が認められていた。一方で、メディア内在化は体重に関係なく、不適切な食事と関連していたとの報告がある。栄養知識は 2 群間で有意差が認められなかったが、メディア暴露はやせ群で有意に高く、メディア内在化（SATAQ スコア）はやせなし群で有意に高い傾向が認められた。やせなし群では、栄養知識、メディア暴露ともに食事に良い影響を与えていたが、やせあり群では食事に影響を与えていないことが明らかとなった。また、やせあり群、やせあり群の両群において、メディア内在化は食事との明白な関連は認められなかった。（目的 2 に対応）。

以上、本研究によって、やせあり群とやせなし群では、栄養知識およびメディア暴露が食事と与える影響が異なることが明らかになった。栄養知識を向上させることに重点を置いた栄養教育では、やせ女性の食習慣の改善は見込めない可能性がある。栄養教育の質を高めるためには、健康や栄養への認識、栄養知識を有することによる実際の行動への変化など、今後さらなる研究が必要である。本研究は、今後のやせ対策に貢献する研究と考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。